

斜面崩壊危険度マップをつくる

地球規模での気候変動により、豪雨による斜面崩壊が増加することが心配されています。斜面崩壊がどの場所で起きやすいか？を示す危険度マップがあれば、対策施設を整備したり、土地利用計画や避難計画を立てたりする際の参考にすることが出来、災害を軽減することにつながります。2003年8月の台風10号によって、日高町門別本町と新冠町を流れる厚別川流域において多発した斜面崩壊が、地形ファクタ（斜面傾斜と集水面積）と地質および林相（人工林・天然林別、林齢、樹種）などどの程度関わっているかを数量化1類および2類という統計手法を用いて解析しました。その結果、地形ファクタや地質が崩壊発生に大きく関わっており、林相の違いはあまり影響を与えていないことがわかりました。この結果を用いて崩壊危険度マップを作成しました。図-1は流域のほぼ全体の危険度を大まかに示したもので、危険度の高い場所（オレンジと赤）は特定の地質分布と対応していました。図-2は里平川の右岸の一部を詳細に示したものです。台風10号による降雨条件のもとで、赤は崩れやすい判定された場所、黄色は崩れにくいと判定された場所で、それぞれの中でさらに5段階で示しています。水が集まりやすく、傾斜が急な谷壁斜面で危険度が高なくなっていました。このような崩壊危険度マップを今回の調査域と同様の地質条件を示す、様似以北の日高支庁管内および留萌支庁管内北部でも作成する予定です。（森林環境部主任研究員）

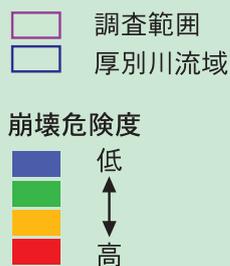
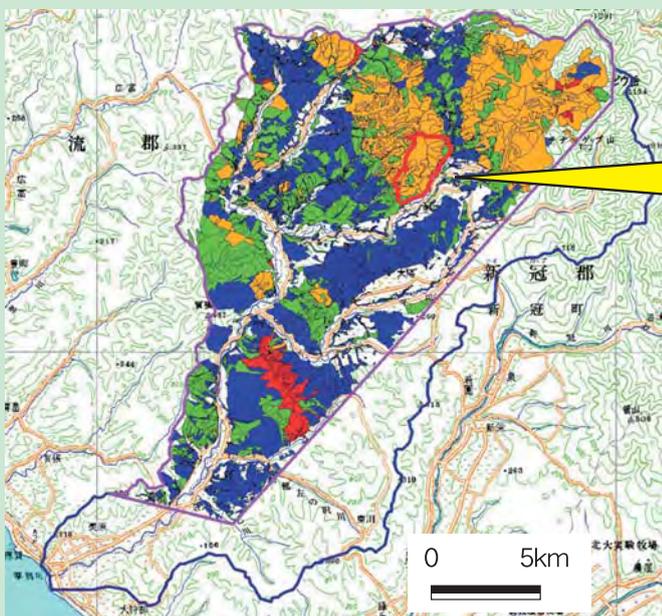


図-1 厚別川流域の崩壊危険度マップ

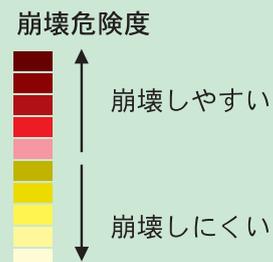
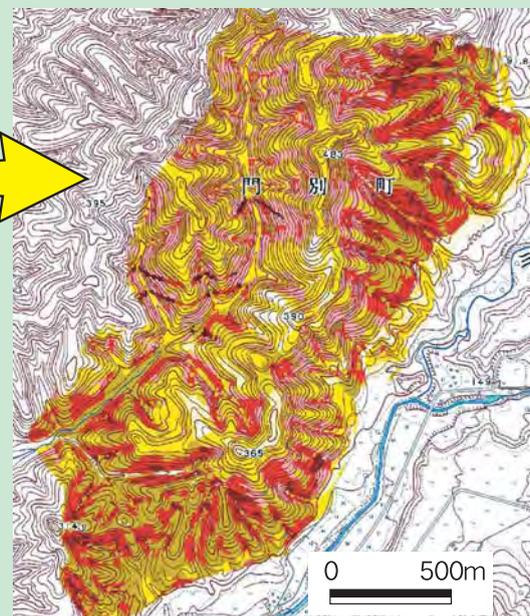


図-2 里平川右岸の崩壊危険度マップ